

みどりの杜俳句会

秩父路の山裾五月の風渡る

佐山ケサ子

山吹の時を越えて姉の家

飯野はつ志

鮎釣りの囀泳がす夜明けかな

落合 七郎

夕暗に木々の花散り山の宿

吉田 愛子

山藤の短かき房や崖に垂れ

木本 弘子

えんだうの白花赤花山の畑

高橋 ツ子

チューリップ空へ真つ直ぐ蕊の向く

鈴木 啓子

新緑や面会の子の肩やせて

田村 好子

空映るつくばひ水馬跳び滑る

梅沢きくえ

白菜の花やみつ蜂飛んで来る

大竹 裕也

裏山に一株真つ赤つじかな

西 つる

春の夢ホーム暮しの君想ふ

市川 朋子

新緑の山にかかりて月円か

今村千鶴子

連翹のしなひ枝先雨の玉

野口利江子

山吹の黄の際立ちて山斜面

関口 侑子

きゅうり苗葉裏の刺に痛さあり

小宮 勉

白鳥の首くねらせて羽繕ひ

土屋 厚子

青木の実色づき初むる山路かな

初雁 功子

向かうから風に飛ばされ朴落葉

鯨井 和枝

柗の小粒の花に香りあり

岡部富美子

飛燕草柴薄れ雨の樹下

山田 美子



人権シリーズ

404

『差別とは何か』

以前家族とともに、ろう者のバーベキュー大会に参加したことがあり、大勢のろう者たちはそれぞれ手話で賑やかにコミュニケーションを取り、楽しんでいました。その中にいた私は、手話での会話すら分からず、ろう者の会話の中に入っていくことすらできず、その時の疎外感は今でも記憶に強く残っています。

私は、健聴者で普段の生活は問題なく過ごしていますが、この時は自分が障がい者になっているようでした。この時の経験を踏まえると自分中、心に物事を見ていると思っていることに気づかされていました。健聴者の自分が勝手に判断し、音の聞こえないろう者の人たちを障がい者と決めつけている自分を恥じていました。

ろう者の人たちからすれば、音のない世界が標準で手話での会話が日常であること、人生の中でさまざまな障害を乗り越え、それぞれの生活を謳歌されていることを遊びの様子から感じ取れました。

私たちが思う障がい者とは実は私たち自身ではないかと思えます。お互いが人を思う気持ちがあれば、差別する意識がなくなり、不足する部分をお互いが支え合い、健康で有意義な生活が送れるのではないかと思います。最後に、近い将来「差別」という言葉が死語になることを信じてやみません。

東秩父村スポーツ協会 市之瀬 正行

東秩父村教育委員会開催のお知らせ

日時 6月22日(木) 午後1時30分～  
場所 役場2階新会議室  
問合せ 教育委員会事務局 ☎82-1230

